

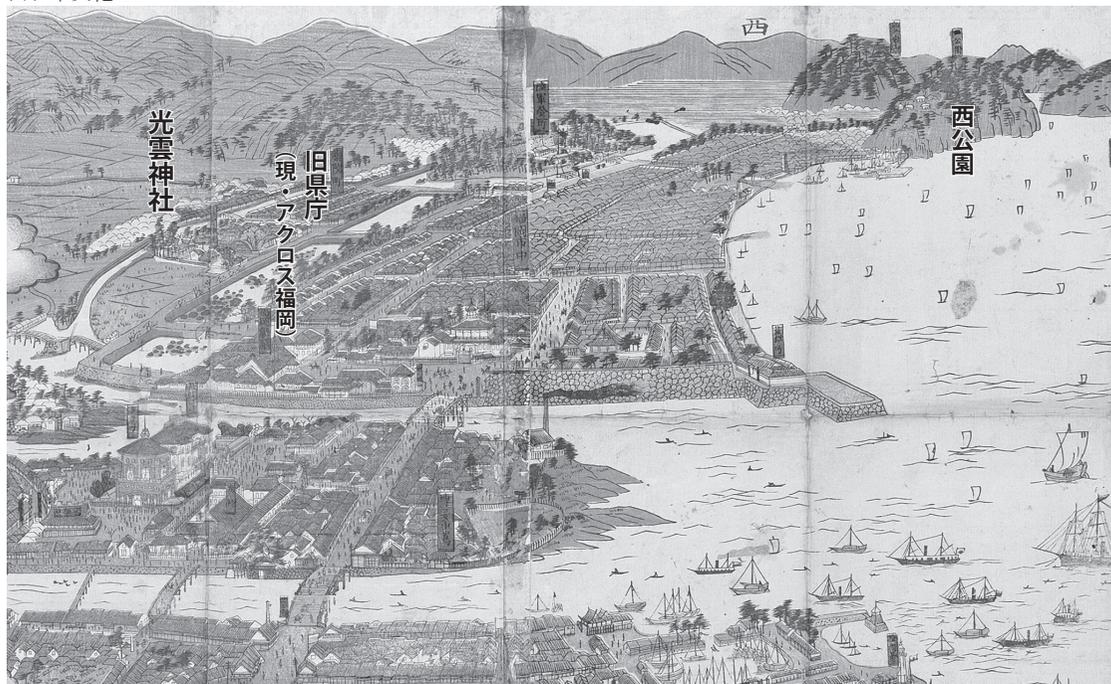
## 光雲神社と旧福岡藩士の蔵書目録：明治期福岡の書物環境

山根, 泰志  
九州大学附属図書館

<https://hdl.handle.net/2324/4150462>

---

出版情報：Cultural story of Nishinohon. 497, pp.76-77, 2021-01-01. 西日本文化協会  
バージョン：  
権利関係：



明治20年福岡・博多鳥瞰図の光雲神社／九州大学附属図書館付設記録資料館檜垣文庫所蔵  
警固神社隣地にあった光雲神社は、明治42年に西公園に遷宮し、昭和20年の福岡大空襲により全焼した。

関係史料については、引き続き光雲神社で管理されていたのであろう。明治四十四年に、光雲神社から浜の町黒田家別邸の家職宛に送付した書物には、「光雲神社御蔵書目」掲載の書物がいくつか確認できる（筑紫女学園黒田家文書〔送附記〕）。

光雲神社が藩史関係史料を所蔵し続けたのは、当社が浜の町黒田家別邸と並ぶ明治期福岡における藩史編纂の拠点だったからである。明治二十年代に、宮内省から各旧大名家に幕末維新史料蒐集の命があり、黒田家でも明治二十四年（一八九一）から東京の松原方直・奥山亨が編輯掛となり、福岡の真藤利明に史料蒐集を依頼するが、その拠点となったのが光雲神社である。その点、本史料中で注目されるのが、真藤利明や末永茂世など、旧福岡藩士の国学者たちから明治十九年に黒田家家職の西川護に送付した書簡の写しである。碩学长野誠の藩史関係の著述を光雲神社神庫に保管するために、写本作成の資金提供を黒田家に求めるものである。明治二十年代以前に、すでに光雲神社が史料蒐集の拠点となっていたことを示す史料だが、その中に、光雲神社神庫に収めた長野の

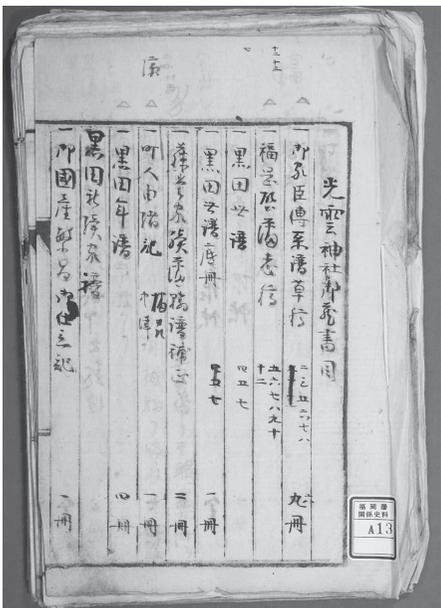
## 『福岡県史』史料紹介 8

# 光雲神社と旧福岡藩士の蔵書目録

## — 明治期福岡の書物環境 —

山根泰志

江戸時代を通じて筑前を治めた福岡藩には、膨大な書物が蓄積されていたが、明治維新によりその多くが散逸した。黒田家の記録・文書の多くは、維新後の黒田家の東京移住に伴い、東京の黒田邸に移されて福岡を離れ、一部が福岡・浜の町の黒田家別邸に保管された。福岡藩や藩校修猷館の蔵書の多くは、廃藩時に県庁に納入されたあと、明治六年（一八七三）に売却され、一部が警固神社



福岡藩関係史料 A13 「光雲神社御蔵書目」  
／九州歴史資料館所蔵

隣地にあった光雲神社に引き継がれた。光雲神社は、福岡藩祖黒田孝高・長政を祀り、福岡に残った旧福岡藩士の精神的支柱となっていたため、その蔵書も寄附され、明治期福岡において重要な書物収蔵拠点となっていた。そうした明治期福岡における書物環境を伝えるのが、本稿で紹介する「光雲神社御蔵書目」（以下本史料）である。

本史料は、「福岡藩関係史料」と名付けられた史料群の一書である。この史料群には、明治期福岡で藩史編纂に従事した旧福岡藩士・光雲神社二代社司の真藤利明（一八二九～一九一〇）とその子利就が蒐集した史料が多数含まれており、本史料も真藤父子が藩史編纂のために有用な書目をまとめたものである。

冒頭の「光雲神社御蔵書目」が史料名として採用されているが、実際には複数の書目からなり、ほかには「石松家所蔵書目略」（旧福岡藩士・歌人石松元啓の蔵書目録）、「小川家蔵書目」（旧福岡藩士小川家の蔵書目録）、

「井原村萱蔵書目略」（旧福岡藩士菅家の蔵書目録）、「芳齋長野翁著書目」及び長野誠著述謄写関係書簡写、「書籍目録」（真藤家の蔵書目録）、「高原謙次郎所蔵書目略」、各種文献の引用書目、「朽木家文庫書目抄」（幕臣朽木綱泰の蔵書目録）などが合綴されている。明治三十六年（一九〇三）刊行の福本日南『筑前志』の引用書目が含まれているが、紙の大きさや状態が書目ごとで異なる場合が多く、作成時期は書目によって異なると思われる。

光雲神社の蔵書目録については、別に「御神庫中御書目」（福岡市総合図書館黒田資料）があり、それは和漢の古典を中心とする典籍類約八〇〇部五八〇〇冊が掲載されたものである。一方で「光雲神社御蔵書目」に掲載されている書物は二九部八〇冊余で、系譜類や分限帳など福岡藩史に関わる史料のみ抜粋されており、「御神庫中御書目」に掲載されている書物と一致しない。光雲神社蔵書中で、典籍類と藩史関係史料とが分けて管理されていたことが窺える。

明治三十五年（一九〇二）、私立福岡図書館が出雲大社福岡分院内に開館した際、光雲神社の蔵書一九九一冊が寄託された。「福岡図書館図書目録」「福岡図書館和漢書目録」（九州大学附属図書館廣瀬文庫）には、「御神庫中御書目」掲載の書物が見えるが、「光雲神社御蔵書目」掲載の書物は見えず、藩史

著述の写本を、謄写したい者があれば貸し出せるようにしたいとの記述があり、旧福岡藩士による家譜の調査や郷土史家による修史に寄与する光雲神社の役割を窺わせる。

実際に、光雲神社の蔵書や真藤父子が蒐集した史料が利用されていたことは、本史料に蔵書目録の抜粋が含まれている乙金村庄屋・郷土史家高原謙次郎の「書籍貸借目録」「太宰府史鑑編纂之時書籍借用控」（高原文書から確認できる）。

真藤父子は、旧福岡藩士の人脈により福岡に残された書物やその情報を蒐集し、藩史編纂を進める一方、郷土史家などに書物を提供し、活動を支えた。本史料は、現在は失われ散逸した書物の情報を記録しているというだけでなく、江戸時代以来の「知」が解体しつつあった明治期の福岡において、「知」の基盤を再構築しようとした試みを伝えてくれるところに、大きな価値があるのである。（やまね やすし・九州大学附属図書館）

※『福岡県史』（六六冊）編さんのために収集された史料（一〇万点以上）は、現在、九州歴史資料館（小郡市）に収蔵されています。

史料に関するお問い合わせ・閲覧申込はこちら  
☎〇九四二（七五）九五七五  
<http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki/kenshi/index.html>